

# HOPES

ホープス セカンド  
2nd

## 故郷を未来につなぐ米づくり

青田 豊実さん(前田)



昨年から稲作を再開しました。地元の人々と協力し、地域で休耕している圃場も活用して、集落営農を行っています。この秋は、5haの食用米、4haの飼料用米と、モチ米を収穫します。

青田さんは、4人兄弟の末っ子。就農前は、東京で会社勤めをしていたそうです。その後、故郷へ戻り、両親と共に農業に励んでいました。「当時は、野菜、牛、米をやっていました。複合経営ですね」。そして、震災を経験。伊達市に避難した青田さんは、「いいたて全村見守り隊」に参加した後、村のICT(情報通信技術)職員として伊達東・相馬大野台の両仮設住宅に



豊かに実った稲穂が、秋の日差しに輝きます。「(作柄は) まあまあかな」と笑顔を見せる青田さん。大型コンバインを器用に操縦し、端からきれいに刈り取っていきました。※10/2取材

勤務。その後の2年間は、飯館村地域農業再生協議会の職員として、村の復興対策課に席を置きました。「農家に戻るまでのつなぎと考えていました。勉強にもなりませんでした」と振り返ります。

再開後は、苗を作らず直接水田に種モミを蒔く「直播」で稲作を行っています。「稲作は生産方法が確立されています。これからは、なるべく手をかけずにできる工夫が必要です」。収益の向上も目指し、水田は、「来年は15町歩に、翌年は20町歩に」と拡大していく計画です。

「両親のやってきた農業。私も仕事をやめて、せっかく戻って来たのですから、地元でなければ再開する意味がなかったんです」と青田さん。「早く嫁さんをもらって、家族をつくって、次につなげられればいいですね」と、やさしい笑顔を見せました。

※1町歩は約1ha

### 〈編集後記〉

● 大型の台風による甚大な被害が全国で発生しました。私たちは、何度も困難に遭っても立ち上がっていきましょう。ひとりじゃない。手を取ってくれる人がいること。あたりまえがいかにも大切で、ありがたいかを知っているから。笑顔と故郷を取り戻すために、何度でも何度でも皆さんと共に歩ませてください。(木幡)

● 皆さんの力をお借りしなければ成り立たない広報取材。大きな災害の影響で、内容を変更した今号でさえ、さまざまにご協力をいただきました。ありがとうございます。本当にありがたいです。今回の被災でご苦労されている方にも、早く穏やかな日々が戻りますよう。また元氣な笑顔に会えますよう。願わずにはいられません。(星)



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。